
特集：地域で守る地域医療 ー地域の取り組みと支援体制ー

地域医療を守るために住民ができること

石 本 知恵子

地域医療を守る会副会長

(平成28年10月17日受付) (平成28年11月4日受理)

はじめに

海部郡は徳島県南部に位置し、美波町、牟岐町、海陽町の3町で構成され、人口約20,000人の過疎と高齢化の進行した地域である。海部郡には徳島県立海部病院（牟岐町）を中心に美波病院、日和佐病院（現在は診療所）、及び海南病院の3町立病院が並立しているが、各病院とも勤務医不足が深刻化している。県立海部病院においては、平成17年に小児科の常勤医、平成18年には産婦人科の常勤医、平成20年には脳神経外科の常勤医が不在となり、その結果常勤医が8名にまで減少したことで土曜日の救急患者の受け入れが休止されるという事態に陥った。住民に入ってくる情報はただ新聞などの報道機関からのみであるということで、地域住民の医療に対する不安は大きくなっていった。平成20年に県立海部病院において毎月開催されていた病院経営戦略会議に地域住民が参加するようになったことで、同病院の医師不足の現状や全国的な医療崩壊の状況等、地域医療を取り巻く厳しい実態を知ることになり、住民として「地域医療を守る会」を結成しようという機運が高まった。本報では、自分たちの地域の医療を地域住民自身で守っていこうとする地域医療を守る会の活動内容とその成果について紹介したい。

1. 地域医療を守る会の立ち上げ

(1) まずは署名活動から

地域あるいは住民として何から活動を始めかを考えた時、まずは組織を作り続いて具体的活動を考えていくのが通常である。しかし、われわれはまずは行動を起こしていこうと考えた。そこで、牟岐町婦人連合会の働きかけで、海部郡3町と高知県東洋町で署名活動を行い、8,466名の署名を集めた。この署名は徳島県知事に

県立海部病院の医療体制の存続と土曜日の救急受け入れの復活を求めるものであった。この危機感を持った署名活動は私達に地域医療について考える機会と住民たちの結束を与えてくれた。

(2) 「地域医療を守る会」の結成

署名活動後、住民達はただ行政に要望するだけでなく、海部病院の医師不足の解消を目指し過重労働などによる医師の病院離れを食い止めるために地域や住民が協力できることを考えていくこととした。そこで、地域住民が安心して医療が受けられる環境づくりのため、地域医療を守る会が平成20年10月2日に結成された。

(3) 地域医療を守る会決起大会の開催

平成20年11月6日、牟岐町海の総合文化センターにおいて海部郡内外の住民約400人が集まった。

大会決議は以下の3項目であった。

- ① 私達は地域医療の現状を学習、理解し、その認識を深めます。
- ② 私達は医療、看護師などの医療従事者や医療機関との良好な関係づくりに努めます。
- ③ 私達は、より多くの住民の参加を得ながら関係諸団体との連携を強め、活動の輪が広がるように努めます。

(4) 徳島県主催の「地域医療を考えるシンポジウム」への参加

平成20年11月29日、牟岐町海の総合文化センターにおいて徳島県医療政策課主催のシンポジウムが開催され、地域医療を守る会のメンバーを中心とした住民が参加し他県からの先進的な取り組み事例などが紹介された。これからが、われわれ地域医療を守る会の住民活動の始ま

りである。

2. 主な活動紹介（表1）

（1）メッセージボードの設置

県立海部病院と地域住民の相互の意思疎通や理解を図るために同病院内に設置した。住民からの応援メッセージや病院に関係するお知らせなどに利用している。

表1. 主な活動内容

メッセージボード作成
ありがとう弁当作り
ケーキ、バレンタインチョコ作り
バザー（住民意識、活動資金）
贈り物（枕、自転車）
医師との交流（港釣り、おでんサロン、三味線）
子育て支援
町民運動会参加
阿波踊りの着付け
環境整備（さくらの会）
クリスマスコンサート（ブルーエコー）
実習報告会への参加
防災訓練
JR への署名活動
住民への呼び掛け寸劇

（2）バザーの開催

守る会の活動資金を確保するためにバザーを開催した。住民たちから持ち寄られた品々は約1時間で完売し、その収益金は海部郡内の公立病院や診療所へのさまざまなプレゼント等に使っている。

（3）JR 四国へのダイヤ改正の要望

県立海部病院は医師不足による医療崩壊の危機にあり、医師確保が急がれる状態に陥っていた。そこで、われわれは、平成21年9月10日、ダイヤ改正を求める12,457人分の署名を添えて、JR 四国に要望書を提出した。これは、徳島市内などから応援診療に当たってくれている医師の長距離通勤の負担軽減を図ることを目的に、通勤列車の所要時間の改善と利便性の向上を図ってもらう要望であった。その結果、ダイヤが見直され、午前9時11分に県立海部病院のある JR 牟岐駅着の普通列車が30分程度早く到着するようになった。

（4）医療関係者への子育て支援

女性医師の確保のため、子どもを預かる子育て支援を進めてきた。行政の協力を得て、ファミリーサポートセンターを開設し、子ども預かりの仕組みをスタートさせている。

（5）郷土料理の「ありがとう弁当」の差し入れ

県立海部病院に勤務する医師に敬意を表し、感謝を込めた手作り弁当を月に1回を届けている。手作りのクリスマスケーキ、バレンタインチョコも愛情を込めて作り、毎年送っている。

（6）命の道路である海部道路の早期実現に向けての要望活動

患者の救急搬送をスムーズに、また、応援医師の通勤手段の短縮の命の道路として19,500人の署名を集めて国土交通省に提出した。

（7）寸劇を用いての住民への意識改革（表2）

住民たちで劇団を結成し、医師の負担を軽減することで地域医療を守ろうと、コンビニ受診を減らすなどの寸劇を通して住民が住民に訴える活動を続けている。コンビニ受診の他に、かかりつけ医の大切さ、＃8000番とは？、k-サポートとは？、在宅医療とは？、認知症と仲良くしよう、等をテーマにしている。まだまだ軽症者の時間外受診は減ってはいないが、寸劇で医療の現状を訴える活動は続けていきたい。

表2. 寸劇による啓発活動

平成22年	コンビニ受診って
23年	海部病院 土曜日救急 休止の今
24年	かかりつけ医って大切よ
25年	コンビニ受診（子供救急 ＃8000）
26年	命を繋げる（K サポートって）
27年	みんなで考えよう 在宅医療
28年	認知症と仲良く

（８）徳島大学医学生地域医療実習報告会に参加

海部郡で地域医療実習を行った徳島大学の医学生たちの実習報告会に地域医療を守る会のメンバーも参加している。彼らと意見交換をしながら海部郡の医療を守る活動に生かすべき提言を医学生からいただいている。地域の医師確保には、医学生を地域で守り育てていくことが大切であると実感している。将来のいつか、彼らが海部の地域医療を支えてくれることを願っている。

おわりに

地域医療を守る会の設立からの８年余りの活動を振り返ってみると、医師不足解消の特効薬は見つかっていない。

しかし、医療は地域住民が安心して生活していく上で欠かすことのできない基盤であることが分かってきた。その中でも救急医療は地域のセーフティ・ネットを確保する視点からも最重要課題であることが理解できた。医師の地域偏在に対しては、地域の魅力を高め、医師が働きやすい環境を作ることできっと道は開けていくはずである。住民は、当事者として一歩前に進み、行政や医療従事者と手を結び、互いに謙虚にそれぞれの役割を認識する必要がある。私達「地域医療を守る会」としても医療は文化であり、地域の活性化のために、安心に包まれた暮らしを自分たちの手で守るためにも、今、自分たちで汗を流すときである。「継続は力なり」を合言葉に活動を継続していく決意を持っている。

The role of residents to defend community medicine

Chieko Ishimoto

The vice-president, a the Group for the Protection of Community Medical Services, Tokushima, Japan

SUMMARY

Saturday emergency service at the hospital was discontinued in April, 2008. It became evident that the community medical service program was facing a serious situation due to the shortage of physicians at a strategy meeting held at the hospital. Local residents realized that to help improve medical services in Kaifu Hospital and to build a network connecting the various service providers would be needed, and then formed the Group for the Protection of Community Medical Services. Their main activities are as follows :

- 1) Presents like pillows have been donated based on the revenue from the bazaar to express the gratitude to physicians.
- 2) They gathered 12,457 signatures which were used as a petition to increase the number of limited express trains on JR Mugi Line.
- 3) They have periodically cleaned grounds of hospitals and physicians' housings.
- 4) They have showed a short play to residents to reduce a convenience check-up to Kaifu hospital.
- 5) They have attended presentations of medical practices by Tokushima University medical students and have listened the presentation and discussed with them.

Key words : community medicine, resident, the shortage of physicians, medical practices